

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長  
( 公 印 省 略 )

病害虫発生予察情報について

令和3年度病害虫発生予報第5号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 総合研究部 病害虫防除室 電 話 076-257-6911 (代表) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	---

## 病害虫発生予報第5号 (予報期間：8月上旬～8月下旬)

### 予報内容

#### 水 稻

**紋枯病**の発生は**やや多**と予想される。防除を実施していない場合は、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

**斑点米カメムシ類**の発生は**やや多**と予想される。高温乾燥時には水田への侵入が促進されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める【病害虫発生予察注意報第1号（令和3年7月8日付）参照】。

#### 大 豆

**ハダニ類**および**アブラムシ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

**カメムシ類**の発生は**やや多**と予想される。幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

**フタスジヒメハムシ**の発生は**やや多**と予想される。汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

#### 果 樹

**ナシ黒斑病**の発生は**やや多**と予想される。耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

**ナシ黒星病**および**リンゴ斑点落葉病**の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

**ハダニ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため同一系統の薬剤は連用しない。発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

#### 野菜・花き

**ネギ黒斑病**の発生は**多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

**ハスモンヨトウ**および**シロイチモジヨトウ**の発生は**多**と予想される。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

**軟腐病**の発生は**やや多**と予想される。作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫防除を徹底する。

**スイカつる枯病**の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。ほ場の排水に努める。

**ハダニ類**および**アブラムシ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

※ 病虫害防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。

## —気象予報—

1か月予報 (令和3年7月29日付け 新潟地方気象台)

予報期間 7月31日～8月30日

### [確率予報]

気 温	低い	10%	平年並	20%	高い	70%
降 水 量	少ない	40%	平年並	30%	多い	30%
日照時間	少ない	20%	平年並	40%	多い	40%

### [概要]

- ・暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は平年より高いでしょう。  
期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。
- ・湿った空気の影響を受けにくいため、日照時間は平年並か多いでしょう。
  
- ・7月31日(土)～8月6日(金)  
湿った空気の影響を受けにくく、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
  
- ・8月7日(土)～8月13日(金)  
太平洋高気圧に覆われるため、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
  
- ・8月14日(土)～8月27日(金)  
太平洋高気圧に覆われるため、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。  
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、  
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す

## 1 水稻の病害虫

### 穂いもち

発生時期	8月以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 葉いもちの現在の発生はやや多 (+) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は高い (-)
防除上の注意事項	(1) 出穂前後に降雨があると発生が拡大するので、この時期の防除は必ず実施する。

### 紋枯病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 茎数は並 (±) (3) 降水量はほぼ平年並 (±) (4) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 防除を実施していないほ場では、発病を確認した場合は、直ちに防除を実施する。

### 斑点米カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 本田への侵入虫数は平年並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 出穂7～10日後と14～17日後の2回防除を徹底する。防除後も斑点米カメムシ類の水田侵入が確認される場合は、さらに追加防除を行う。 (2) 高温乾燥時には水田への侵入が促進される。

### セジロウンカ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生に留意する。

### コブノメイガ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 成虫の飛び立ち数は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 晩植や直播のほ場等では集中産卵による被害の発生が懸念される。 (2) ほ場巡回に努め、発生を認めたら直ちに防除を実施する。

## ツマグロヨコバイ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生に留意する。

## 2 大豆の病害虫

### 紫斑病

発生時期	感染時期は幼莢期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

### ハダニ類

発生時期	急増期は8月上旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 調査ほ場は未確認 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

### アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 調査ほ場は未確認 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

### カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 調査ほ場は未確認 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

### フタスジヒメハムシ

発生時期	発生盛期は8月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

### 3 果樹の病害虫

#### ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### ナシ黒星病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は高い (-)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

#### リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

#### カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は高い (-)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

#### ハダニ類 (なし、りんご)

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。 (2) 発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

## 4 野菜・花きの病害虫

### 疫病類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。 (2) ほ場の排水およびハウス内換気に努める。

### うどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は高い (－)
防除上の注意事項	(1) 過繁茂を避ける。 (2) 施設では過度の乾燥を避ける。

### 軟腐病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫防除を徹底する。

### スイカつる枯病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

### スイカ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は高い (－)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

ネギ黒斑病	
発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は多 (+) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。
ハダニ類	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。
アブラムシ類	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。
オオタバコガ	
発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。
ハスモンヨトウ	
発生時期	8月上旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。
シロイチモジヨトウ	
発生時期	8月上旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。